

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです。

三流は、我慢してやり、二流は、得意な仕事と組み合わせながら進め、一流は、他人に知識を借りて進める。

リーダーになると、報告書や資料の作成など、今までやったことのない新しい仕事が出てきます。対面でお客さんとコミュニケーションをとるのは得意だけど、事務処理は苦手だという人も、避けることはできません。プレイヤーとリーダーの仕事は違いますから、このような仕事が発生するのは仕方がないことです。三流のリーダーは、修行の場だと思って、苦手な仕事にとり組みます。しかし、苦手な仕事は長く集中を継続できないものです。私自身がそうでした。

はじめてリーダーになったとき、営業メンバーの業績を分析して、ここ3ヶ月の行動をどのようにしていくかを、まとめなければなりません。このような仕事は苦手でしたので、非常に苦勞しました。1時間に何度も自動販売機に行ったり、外に出て休憩したり、煙草を吸わないのにコーヒーを持って喫煙室に入ったり……。50分以上集中することができません。苦手な仕事をずっとやり続けていると、苦痛になってしまいます。我慢してやっても、効率が悪くなり、予定通り進みません。

できるリーダーは、苦手な仕事を得意な仕事と組み合わせながら進めていきます。例えば、メールチェックのところで書いたように、25分苦手な仕事をやったら、お客様に電話してみる、あるいはメールを送信する、こういった形で得意な仕事と組み合わせるのです。また、苦手な仕事というのは、たいてい「仕事のかたまり」で、苦手と感じてしまっていることが少なくありません。新しい仕事に関しても、何だか難しそうだな、面倒だなと思っただけのことも少なくありません。そこで、仕事を細かい作業に分割してみるといいでしょう。そうすることで、だいぶ気持ちも楽になってきます。しかし、得意な仕事と組み合わせるだけでは、まだまだ一流のリーダーとは言えません。

では、一流のリーダーだったら、どのように進めていくのか？上司や先輩、ときには部下の「集合知」を上手に使うのです。「集合知」とは、多くの人の知識が蓄積したものを言います。どういうことかということ、やり方を知っている上司や先輩の「知識」をうまく借りるのです。例えば、役員に出す営業分析の報告書なら、どのようにつくっていたのかを上司や先輩に見せてもらうのです。フォーマットはそれを参考にすればいいでしょう。フォーマットをつくることに時間をかけても、価値は生まれません。フォーマットをつくることは「作業」です。「作業」には、極力時間をかけるべきではないのです。ウンウン唸りながら机の上で考えていても、生産性はありません。あくまで価値を生むのは、内容です。「作業」には労力をかけずに、価値を生む部分に力を入れるようにしましょう。ただし、価値を生む部分は、たとえ苦手なことであっても、必ず身につけておかななくてはならない素養です。得意な仕事と組み合わせても、やっていかななくてはなりません。

一流のリーダーは苦手な仕事をどのように進めていくと言っていますか？

()